

口腔機能成育歯科学特論（木本茂成）

Advanced Course of Dentistry for Growth and Development of Oral Function
(Shigenari Kimoto)

キーワード

- ① 口腔機能
- ② 摂食・嚥下機能の発達
- ③ 咀嚼機能の発達
- ④ 歯列・咬合の発育
- ⑤ 頭蓋・顎・顔面の成長発育

授業概要

小児期の顎・顔面・頭蓋の形態と構造について、その解剖学的・組織学的な特徴を理解し、健全な口腔機能の育成に不可欠な、歯および歯周組織の成長と歯列・咬合の変化についてその正常像を習得する。さらに、正常な発育過程における歯列・咬合と歯周組織の成長発育を含む形態的な変化と口腔周囲の筋機能の発育による機能的な発達過程について理解するとともに、臨床の資料から、その相互作用と正常な発育を阻害する遺伝的因子ならびに環境要因について学修する。

授業科目の学修目標

小児期の口腔機能の育成に必要な遺伝的要因ならびに環境要因を理解し、健全な歯列・咬合の発育と頭蓋・顎・顔面の成長発育を阻害する因子を早期に発見することにより、個々の症例についての分析能力を修得する。

授業計画

- ① 口腔機能診断
口腔周囲筋の不調和による歯列・咬合ならびに顎顔面部の成長への影響と検査方法を修得する。
 - ・頭蓋・顎・顔面の形態学的検査 2コマ 木本茂成
 - ・顎・口腔機能の検査の基礎 2コマ 木本茂成
 - ・摂食・嚥下機能検査 2コマ 木本茂成
 - ・筋機能の異常に関する検査 2コマ 木本茂成
 - ・機能的診断 2コマ 木本茂成
- ② 形態異常に関するケースプレゼンテーション
頭蓋・顎・顔面の形態異常に関する臨床症例を基盤とした具体的な診断方法を修得する。
 - ・頭蓋・顔面の形態的異常に関する症例 4コマ 井上吉登
 - ・顎骨の形態的異常に関する症例 4コマ 浅里 仁
- ③ 口腔機能障害に関するケースプレゼンテーション
機能障害に対する対応、口腔筋機能療法の基本的術式ならびに効果について学修する。
 - ・口腔筋機能療法の基本的術式と効果 4コマ 木本茂成
 - ・摂食・嚥下機能障害に関する症例 4コマ 井上吉登
 - ・口腔周囲筋の異常に関する症例 4コマ 浅里 仁

教科書および参考書

小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版、医歯薬出版、田角 勝、向井恵美編著
オーラルマイオファンクショナルセラピー：口腔筋機能療法の診査と指導法、わかば出版、William E. Zickefoose 著、山口秀晴・大野肅英・吉田康子・今村美穂 訳
小児歯科学ベーシックテキスト・クリニカルテキスト第2版、永末書店、新谷誠康他編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔機能成育歯科学特論では授業項目と臨床症例を基盤として、機能障害を伴う小児に対応するために必要な検査項目、検査方法、診断、治療方法に関する知識と技能の修得が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 成長発育期の口腔機能障害による頭蓋・顎・顔面部の形態異常に関する検査、診断法を理解し説明できる。
- ② 成長発育期の頭蓋・顎・顔面部の形態異常への対応について理解し説明できる。
- ③ 成長発育期の口腔機能障害への対応について理解し説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、口腔機能成育歯科学特論授業計画の3項目について課題を提出する。10%×3回=30%
- ・口頭試問は、学修項目3項目のユニット終了時に行い知識の理解度を判定する10%×3回=30%

理想的な達成レベルの目安

口腔機能成育歯科学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。